



児童や卒業生、地域の人たち総出で全国放送された「ふるさと一番」の生中継の様子。

馬淵小の魅力伝え 生放送で全国に中継

「こんにちは。ふるさと一番！今日は岩手県葛巻町の馬淵小学校からお伝えします。」と12月13日12時20分、NHK総合テレビから放送が流れました。ふるさとの魅力を生中継で伝える、お昼の番組「ふるさと一番！」で、3月の閉校が決まっている馬淵小学校（小野寺和子校長、児童13人）が全国に向けて放送されました。「大好き！ぼくらの小学校」として、ピンク色の校舎、ぴかぴかの長い廊下ぞうきんがけリレー、親が小学生のころ彫った自画像、地域の人と一緒に復活させた伝統の神楽など地域の思い出がいっぱい詰まっている学校を、児童がいきいきと案内。ゲストの元プロ野球選手・岩本勉さんと一緒に学校の魅力を誇らしげに伝えました。放送終了後、学校には「見たよ！」と感激の電話が殺到しました。



食生活改善推進員から手ほどきを受け郷土料理をつくる葛巻高1年生。円内は、試食で満腹、つつい笑顔の参加者。

ベテラン母ちゃんに学べ 葛巻高で郷土料理講習会

葛巻高校（伊藤正博校長、生徒150人）で12月5日、「ベテラン母ちゃんの出前食育」として、町の食生活改善推進員協議会（土谷勝子会長）による食育講習会が行われました。

全4回講習会の2回目となるこの日は1年生60人が参加。推進員12人が、農作業の合間のおやつ“こびる”のお話と小麦粉やそば粉を使った「みみもち」や「ほどもち」を調理。土谷会長は「道具がなくても簡単にできる料理など、覚えておくと便利。」と技と知恵を伝えました。「自分たちで作ったものは美味しかった。またやってみよう」と生徒は目を輝かせました。

お世話になったお礼に 吉ヶ沢小で食の感謝祭

「お世話になったたくさんの方々に感謝の気持ちを伝えよう。」と、吉ヶ沢小学校（佐藤晃校長・児童7人）では12月14日、地区のコミュニティーセンターゆきわりそうで食の感謝祭を開きました。

地区の農家・瀧渡正吾さん（63）方で、春の田植えから秋の脱穀までを体験した児童は、作業の様子を発表。さまざまな場面での協力者に、児童一人ずつ手書きの感謝の手紙も贈られました。招待された地区の人たちなど約30人が小豆やクルミもち、地区に伝わる雑煮などを味わいながら、子どもたちのころやさしいおもてなしに目を細めていました。



「吉ヶ沢の食文化」を味わった感謝祭。円内は児童から感謝の手紙を受け取る学校活動への協力者。

回復願い歌声の贈り物 葛巻病院クリスマス会

「皆さんの一日も早い回復を」と葛巻病院で12月17日、クリスマス会が開かれました。

ゲストの葛巻中学校1・2年生有志約30人による「イーハトーブの風」など2曲のきれいな歌声で幕開け。続いて、サンタ姿の職員によるハンドベル演奏は、練習成果を発揮できない場面もあったりで、会場は一気に和やかムードとなりました。続いて職員の家族、大久保祐真君（7歳）と木ノ下春菜ちゃん（6歳）がキャンドルサービスを行い、入院している人たちは「うれしいプレゼントでした。」と喜んでいました。



葛巻病院で行われたクリスマス会

心と身体を競って20回 町柔道選手権大会開催

第20回葛巻町柔道選手権大会は12月2日、町社会体育館で開かれ、葛巻町柔道スポーツ少年団のほか、八幡平市、岩手郡内や九戸村の小中学生約170人が団体戦と個人戦で日ごろ鍛えた技を競いました。

小学校3・4年生の部個人戦で同少年団の堺澤星弥君が準優勝。体育館のアリーナに設けられた3面の試合場では、一本背負いなどの技が次々と決まり、応援に詰めかけた親やチームメイトの声援が響き渡りました。

主催した町柔道協会の下道喜美男さんは「大きな大会を長く続けられるのも、手伝ってくれた高校生や少年団の父母会のお陰です。」と大会を支えてくれた多くの人へ感謝するとともに、「柔道で、心と体を鍛えませんか」と呼び掛けていました。



町社会体育館アリーナで開催された町柔道選手権大会

女性の視点でまちづくり 集いで参加者誓い新たに

葛巻町女性団体連絡会（柴田幸栄会長）主催の第22回葛巻町女性の集いは12月2日、ふれあい宿舎グリーンテージで開かれ、同会に加入する6団体の会員ら約100人が参加しました。

集いのはじめは、盛岡地方検察庁の職員を講師に平成20年度に始まる「裁判員制度」について講演が行われ、新たな制度への理解を深めました。午後は会員2人の研修報告に続いて各団体から活動報告。

参加者は、地域活動の推進役として各女性団体の協調・連携を図りながら、女性の視点と創意を持ってまちづくりに参画することを誓いました。



加入6団体の代表者が活動報告をした「女性の集い」